

あいち農産物生産流通レポート

2026年9月号

ページ

◎ マンスリーレポート

- ・ 愛知のふるさと食品コンテストの取組について (食育消費流通課) 1

◎ 地域トピックス

- ・ 県内トップを切って新米出荷！あいち米初出荷式が開催されました！ (海部農林水産事務所) 3

◎ 東京レポート

- ・ 果樹展示交流会「FRUITS EXHIBITION2026」が開催！ (東京事務所) 4

- ◎ 東京都中央卸売市場における主要な愛知産青果物の動向 (東京事務所) 5

◎ 花 き

- ・ 切花・鉢花の見通し(県内市場) (食育消費流通課) 7

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

愛知のふるさと食品コンテストの取組について

食育消費流通課

愛知県では、県産農林水産物を活用した加工食品を新たに掘り起こし、農林水産物の利用拡大と生産振興に資することを目的として、1998年から「愛知のふるさと食品コンテスト」を毎年開催しています。

今年度は応募のあった24商品について、書類による一次審査を実施し、上位7点について、審査会で食味審査を行いました。

審査の結果、「縁結び（プレーン）大袋」を最優秀賞（知事賞）、「本格芋焼酎 ^{サンディール} SANDEEL」と「プレミアム『^{アマイモ} amaimo』^{ビーエフ} P F 120」を優秀賞（愛知食品産業振興協会会長賞）に決定しました。

なお、最優秀賞の商品を一般財団法人食品産業センターが主催する「優良ふるさと食品中央コンクール」の愛知県代表として県から推薦しました。本県からの推薦商品は、本コンクールの最高賞である農林水産大臣賞を1999年以降で9回受賞しています。

1 最優秀賞（知事賞）の概要

商品名	縁結び（プレーン）大袋	
製造者	あぶら菓子専門店 かもめ（蒲郡市） https://kamome.buyshop.jp/	
希望小売 価格（税込）	1,200 円／袋	
原材料	小麦粉、粗糖、卵、胡麻油、塩	
商品内容	・江戸時代から蒲郡に伝わる郷土菓子「あぶら菓子」を伝統の手綱結び（たづなむすび）の形に仕上げた縁起菓子。 ・愛知県産小麦粉・蒲郡産鶏卵・蒲郡製造生絞り胡麻油（太白）を使用。 ・蒲郡市ふるさと納税返礼品にも登録。	
審査講評	・地域の伝統的なお菓子を復活させ、地域の名産にする取組が良い。 ・他にはない硬さが魅力。 ・噛むほど旨味が口の中に広がる。	

2 優秀賞（愛知食品産業振興協会会長賞）の概要

商品名	本格芋焼酎 SANDEEL	
製造者	榊原工業株式会社（西尾市） https://sk-shell.jp/	
希望小売 価格（税込）	2,500 円／本	
原材料	さつまいも、米こうじ	
商品内容	・ 鋳型中子を製造する事業者である榊原工業株式会社の社員がサツマイモ（紅はるか）を栽培し芋焼酎として商品化。 ・ 取引先から排出される鋳物の廃砂とウナギの養殖場から出る底泥を混錬し栽培土壌として活用。 ・ 西尾信用金庫のビジネスマッチングを活用し、地元酒造メーカーとの協調を実現した商品。	
審査講評	西尾市の産業連携による地域資源活用モデルであること、焼酎の原材料である芋栽培に際し、土づくりから取組んでいることは評価に値する。	

商品名	プレミアム『amaimo』PF120	
製造者	イモラボ #imolabo（江南市） https://imolabo.stores.jp/	
希望小売 価格（税込）	3,780 円／個	
原材料	さつまいも、生クリーム、発酵バター、 卵他	
商品内容	・ 6 次化産品（原材料のさつまいも栽培から製品への加工・販売まで手掛ける）。 ・ 耕作放棄地を再活用し、栽培期間中に化学合成農薬・化学肥料不使用で栽培したさつまいもが主原料。 ・ 地域の JA・商工会議所・市役所・大学・酪農家などの力をフル活用し、原材料栽培から商品開発まで手がけた産品。	
審査講評	さつまいもはよくあるスイートポテトになりがちだが、それを越えた商品設計と試作の奮闘が感じられる逸品。	

2026 年度愛知のふるさと食品コンテストの他の出品商品については、愛知県公式 Web サイトに 10 月頃に掲載します。

2025 年度の出品商品は（<https://www.pref.aichi.jp/book/list/book273.html>）に掲載しています。

県内トップを切って新米出荷！ あいち米初出荷式が開催されました！

海部農林水産事務所

愛知県では、8月上旬から10月にかけて「あいちの新米」の収穫が続きます。
早場米の産地である弥富市鍋田地区では、2026年8月10日（月）に県内のトップを切って今年の新米が出荷されました。

1 今年のあいち米初出荷式について

JA あいち海部鍋田集出荷場で、JA あいち海部と JA あいち経済連の共催により、あいち米の初出荷式が開催されました。初出荷式には、弥富市長を始めとする管内の関係者のほか、農業水産局長や海部農林水産事務所長などの県関係者も臨席しました。

検査員を委嘱された JA あいち海部マスコットキャラクターの「あまにゃん」による出荷米の検査、出席者と一般消費者によるテープカットなどのセレモニーが行われた後、「あきたこまち」9,193 袋（1 袋 30 kg）を積んだトラックが集出荷場から出発しました。出荷された米はすべて1等米で、8月中旬以降、県内のスーパーなどで販売されます。



消費者参加のテープカット



「あきたこまち」を積んだトラックの出発

2 今年の作柄について

JA あいち海部の鍋田地区は、水稻生産出荷農家が100名、作付面積648.9haのうち「あきたこまち」と「コシヒカリ」が6割以上を占める早場米の産地で、「あきたこまち」を皮切りに収穫が始まっています。本年産の「あきたこまち」は、高温や斑点米カメムシの影響で栽培管理条件が厳しい中ではありましたが、生産者の適切な管理により、順調に生育が進み、作柄は平年並で、品質は良好です。



農産物検査の結果を発表する「あまにゃん」と補佐する「あぐり父さん※」



今年収穫された「あきたこまち」

※「あぐり父さん」はJA あいち経済連のあいち米キャラクター

果樹展示交流会「FRUITS EXHIBITION 2026」が開催！

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2026年8月7日（金）、レンタルスペース BPM（東京都世田谷区）において、果樹生産者、バイヤー企業、行政担当者などが参加する果樹展示交流会「FRUITS EXHIBITION 2026」が開催されました。会場では、果樹関連商品の展示や試食のほか、果樹農業の課題解決に向けた取組事例を紹介する講演会が行われましたので、その概要を紹介します。

1 FRUITS EXHIBITION 2026 について

本展示会は、果樹農業における担い手不足や気候変動への対応をテーマに、新たな栽培技術や省力化技術、異業種からの参入事例、国の支援施策等を紹介するとともに、生産者とバイヤーとの交流・マッチングを目的として開催されたものです。会場では、出展者による商品の展示や試食が行われ、多くの来場者でにぎわいました。



展示会の様子

2 講演会「みかんの輸出拡大に向けたプロセス最適化と「強いみかん」の栽培」

講演では、台湾向けにみかんを輸出している生産者から、輸出に向けた取組について紹介がありました。台湾では残留農薬基準が厳しいため、生産者との連携のもと、使用する薬剤や散布時期を見直しながら対応しているとのことでした。

また、輸出では、収穫から現地到着まで約2週間を要するため、鮮度保持が重要な課題となっています。過去には輸送中のカビ発生により商品を全量廃棄した経験もあり、その後は温度管理や包装資材の改良、長期保存に適した品種の選定などに取り組んでいるとの説明がありました。



試食コーナー



ミニステージでの講演会

愛知県においても、夏季に出荷される果実ではカビの発生が課題となる場合があります。今回の講演を通じて、高品質な果実の生産技術だけでなく、流通や販売までを見据えた鮮度保持・保存管理技術の確立も重要であると改めて感じました。

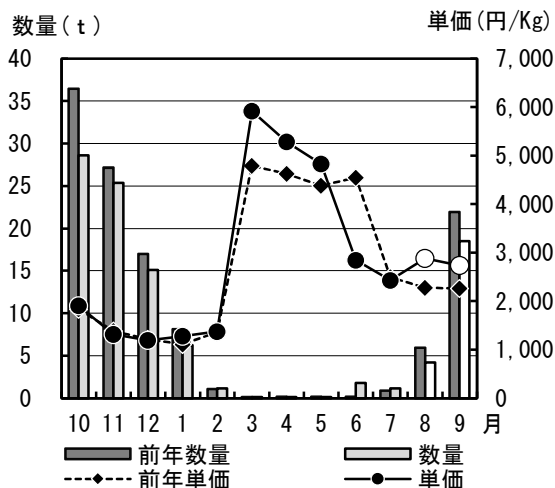
東京都中央卸売市場における9月の主要な愛知産青果物の動向

1 翌月の見通し

品目名 ぎんなん

区分 実績等		入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)		市場からの提言等
実 績	2021年	32	1, 237	愛知	67. 9%	愛知県産は入荷量のシェアが高い 上、選別が徹底され、大粒で実が充 実しているため、他の産地よりも品 質が良く、市場での評価は高い。今 後も生産量を維持できるように願 いしたい。
	2022年	37	2, 198	静岡	8. 5%	
	2023年	30	3, 149	埼玉	7. 9%	
	2024年	33	2, 446			
	2025年	32	2, 576			
	5 ヲ年平均	33	2, 309			
2026年見通し		27	3, 110			

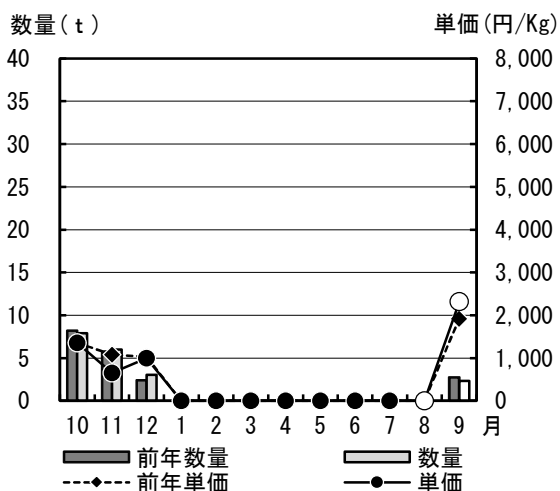
愛知産の動き



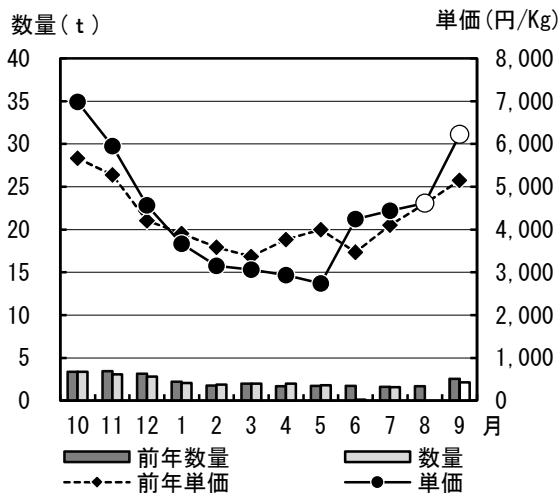
産地概況

本県は裏年のため着果量が少なく、入荷量は、前年よりも大幅な減少を見込む。競合産地の静岡、埼玉は前年並の入荷を見込む。
やや小玉傾向で、2L～Lサイズ中心の入荷を見込む。静岡、埼玉は前年並のサイズの入荷を見込む。
なお、本県、静岡、埼玉の品種は「久寿」。

競合産地の動き（静岡）



競合産地の動き（埼玉）



2 入荷量・価格の動き

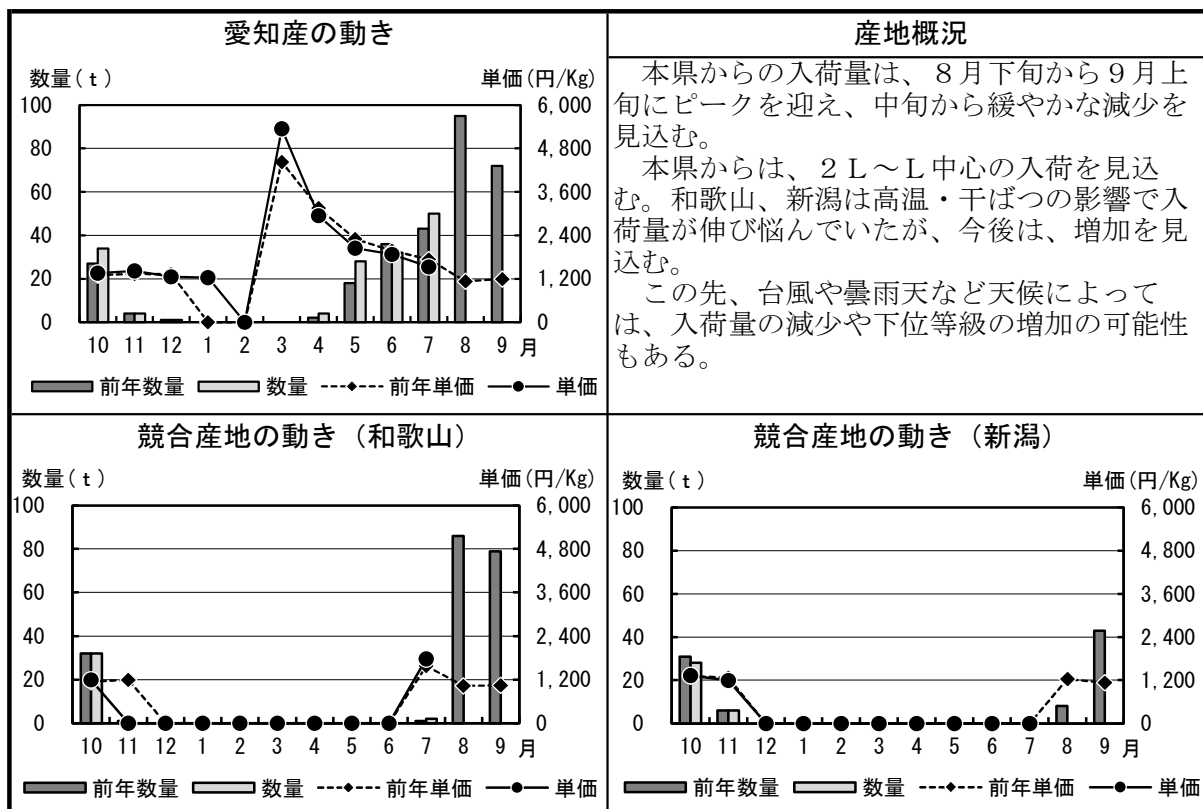
品目名 いちじく

前年上位3産地(%)

和歌山 31%

愛知 29%

新潟 17%

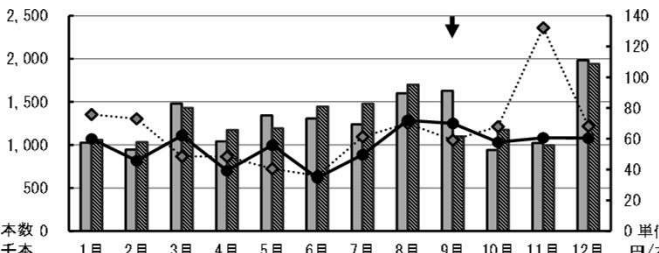
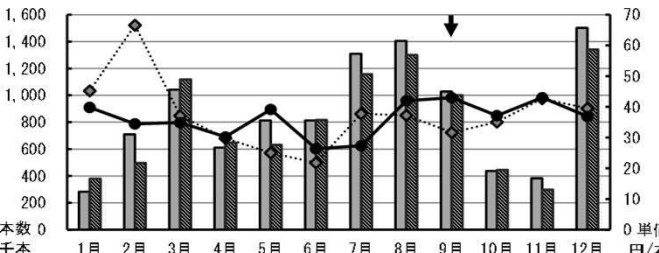
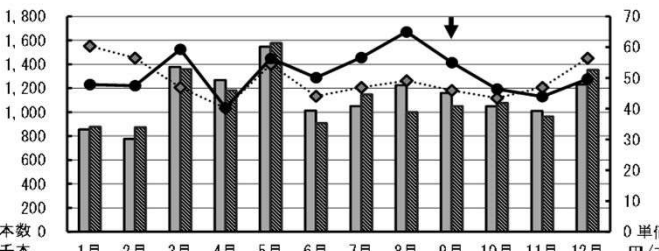
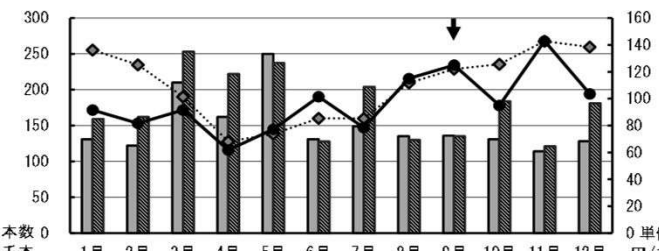


切花・鉢花の9月の見通し

前年・数量 前年・単価
 当年・数量 当年・単価

切花（愛知名港花き地方卸売市場 9月1日現在）

単位：千本、円／本

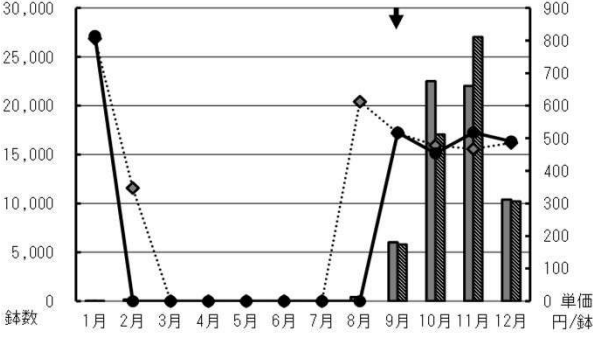
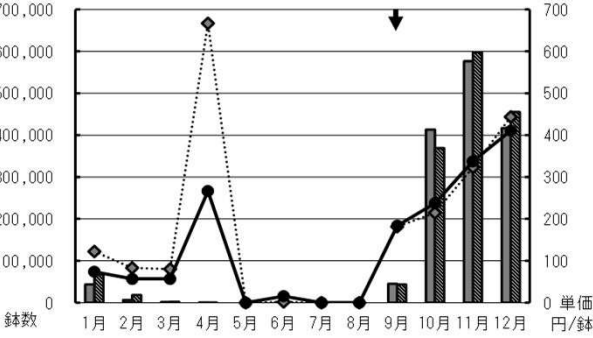
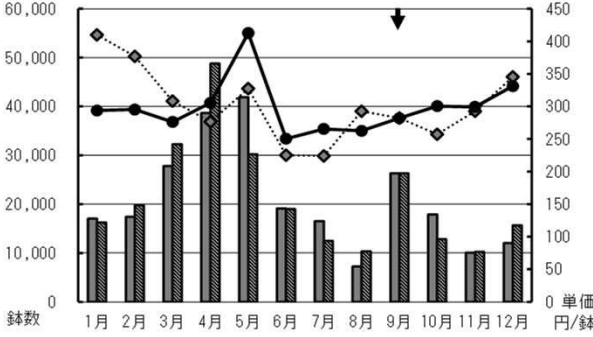
品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2021年	1,468	63	
		2022年	1,470	63	
		2023年	1,703	63	
		2024年	1,536	68	
		2025年	1,628	59	
	5ヵ年平均		1,561	63	
	2026年見通し		1,100	70	
概要	愛知、長野中心に入荷。今年はスタートから順調に出荷が進んでおり、月前半こそ厳しいが、彼岸需要の中旬頃から入荷が増え相場も安定の見込み。				
小 ぎ	実績	2021年	1,503	38	
		2022年	1,383	34	
		2023年	839	60	
		2024年	1,084	44	
		2025年	1,028	32	
	5ヵ年平均		1,167	41	
	2026年見通し		1,000	43	
概要	愛知、長野、埼玉、岩手から入荷。今期はシーズン通し出荷が前倒し傾向で、月前半は若干販売苦戦するが、中旬からは安定販売になる見込み。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2021年	1,088	47	
		2022年	1,158	50	
		2023年	1,022	61	
		2024年	1,172	52	
		2025年	1,160	46	
	5ヵ年平均		1,120	51	
	2026年見通し		1,050	55	
概要	長野中心の入荷。今期は暑さで短いものもあるが概ね出荷はスケジュールは順調で彼岸も計画通りの出荷になる見込み。為替の影響で特に南米産が入荷しづらく価格面では高水準で推移の見込み。				
か す み そ う	実績	2021年	106	150	
		2022年	106	140	
		2023年	141	123	
		2024年	177	108	
		2025年	136	122	
	5ヵ年平均		133	128	
	2026年見通し		135	125	
概要	福島、長野からの入荷。今期はほぼ計画通りの出荷スケジュールで需要期に対応できた。秋の訪れが早い場合は、中旬から入荷が減少し、高単価で推移の可能性。				

単位：千本、円／本

品目	区分	実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
ゆり	実績	2021年	268	188	
		2022年	278	191	
		2023年	257	212	
		2024年	234	205	
		2025年	248	207	
	5カ年平均		257	201	
	2026年見通し		240	210	
	概要	オリエンタルは新潟、北海道、埼玉、岐阜からの入荷。今期は7月に北海道からの入荷が多かったが、概ね順調でお盆需要に対応できた。9月は気温次第では中旬以降品薄傾向になる見込み。鉄砲ユリは兵庫、愛媛からの入荷。需要期に対応できる見込み。			
洋らん	実績	2021年	295	104	
		2022年	299	134	
		2023年	340	118	
		2024年	346	111	
		2025年	264	124	
	5カ年平均		309	118	
	2026年見通し		250	125	
	概要	愛知、鹿児島、静岡などの国産に加え、輸入品が入荷。特に輸入品中心の胡蝶蘭、オンシジウム、シンビジウム等は為替の影響があり減少傾向。カトレア、デンファレは安定出荷・安定販売の見込み。			
ばら	実績	2021年	664	69	
		2022年	747	74	
		2023年	705	81	
		2024年	700	74	
		2025年	657	83	
	5カ年平均		695	76	
	2026年見通し		650	85	
	概要	愛知、岐阜、三重、山形中心の入荷。暑さの影響もあり秀率は悪い。中旬には品質が戻り、安定単価となることを期待。			
枝もの	実績	2021年	1,165	61	
		2022年	1,248	68	
		2023年	1,216	67	
		2024年	1,358	56	
		2025年	1,155	68	
	5カ年平均		1,228	64	
	2026年見通し		1,100	69	
	概要	今期は高温ではあったが比較的順調な出荷。秋以降も需要期には出荷がある見込み。また山取りの枝物は月頭から出荷が始まる。			

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ類	実績	2021年	21,998	1,084	
		2022年	25,779	958	
		2023年	22,482	737	
		2024年	20,390	898	
		2025年	21,742	824	
	5ヵ年平均		22,478	902	
	2026年見通し		21,000	833	
概要	入荷量は前年より減少か。主な要因として、生産がフィカス類へシフトしており、ドラセナ類の作付比率が低下している。主力となる4～6号サイズは、今後も出荷量の減少が見込まれ、市場全体で品薄感が一層強まる見込みである。また、8号以上の大型商品についても、フィカス類の生産拡大の影響を受け、ドラセナ類の生産量は減少傾向にある。その為、大型サイズを含め全体的に供給量は減少傾向になる見込みである。				
オンシジウム	実績	2021年	1,353	697	
		2022年	1,835	600	
		2023年	1,886	562	
		2024年	912	646	
		2025年	682	874	
	5ヵ年平均		1,334	643	
	2026年見通し		680	875	
概要	入荷量は前年並みか。年々生産量は減少している。小鉢の商品は花が早いものがあり、9月中下旬頃から始まる見込み。				
アンズリウム	実績	2021年	8,428	874	
		2022年	9,031	828	
		2023年	6,177	866	
		2024年	6,560	997	
		2025年	9,910	963	
	5ヵ年平均		8,021	905	
	2026年見通し		9,500	947	
概要	入荷量は前年より減少か。入荷のピークは過ぎた。特に主力となる4～6号サイズは入荷量が限定的となり、供給はやや引き締まる事が予想される。販売面では、ギフト需要を背景に主力の6号サイズは引き続き、堅調な荷動きが見込まれる一方で、8号以上の大型商品は需要が落ち着き、販売動向にやや鈍さが見られる状況である。9月は全体として供給量の減少が見込まれるものの、6号サイズはギフト需要に支えられ安定した販売を期待。				

単位：鉢、円／鉢

品目		区分	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
実績等					
シャコバサボテン	実績	2021年	22,012	451	
		2022年	22,981	445	
		2023年	17,719	458	
		2024年	17,976	455	
		2025年	6,019	516	
	5ヵ年平均		17,341	456	
	2026年見通し		5,800	517	
概要	入荷量は前年より減少か。出荷見込みは1社のみ。生産現場で台風などによる多雨な条件となった為、歩留まりが悪い予想も重なり鉢サイズが小さくなるほど出荷減になる見込み。ただしこれらは月前半の予想であり、彼岸前あたりからは次作と重なる部分もあり出荷の安定化、前半と比較した数量増となる見込み。他社のお荷も期待できる。				
シクラメン	実績	2021年	169,086	157	
		2022年	115,183	164	
		2023年	104,214	159	
		2024年	59,998	185	
		2025年	45,117	182	
	5ヵ年平均		98,720	164	
	2026年見通し		43,570	184	
概要	入荷量は前年よりやや減少か。夏場の残暑による影響で出荷の遅れが懸念される。9月は前年同様3号ガーデンシクラメンが主体となり、中旬から下旬にかけて出荷が始まる。4号鉢以上の入荷は10月以降となる見込み。残暑や台風等の天候にも左右されるが、相場が安定するのは9月下旬以降となる見込み。				
カラコエ	実績	2021年	34,980	249	
		2022年	33,503	242	
		2023年	26,957	259	
		2024年	30,036	274	
		2025年	26,300	282	
	5ヵ年平均		30,355	260	
	2026年見通し		26,300	282	
概要	入荷量は前年並みか。5～6号は前年同等の生産、4号以下の小鉢全体では微減。特に八重品種はサイズ問わず減っている。生育は前年より暑さの影響が少なく順調に出ると見込まれる。				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポートNo.637
2026年9月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434